

13. その他

13.1. 放射性セシウム濃度（大気質及び土壌）

13.1.1. 大気質

1) 調査地点及び調査期間

調査地点及び調査期間は、表 13.1-1 に示すとおりである。調査地点は、図 13.1-1 に示す都市計画対象事業実施区域周辺の 5 地点とした。

表 13.1-1 調査地点及び調査期間

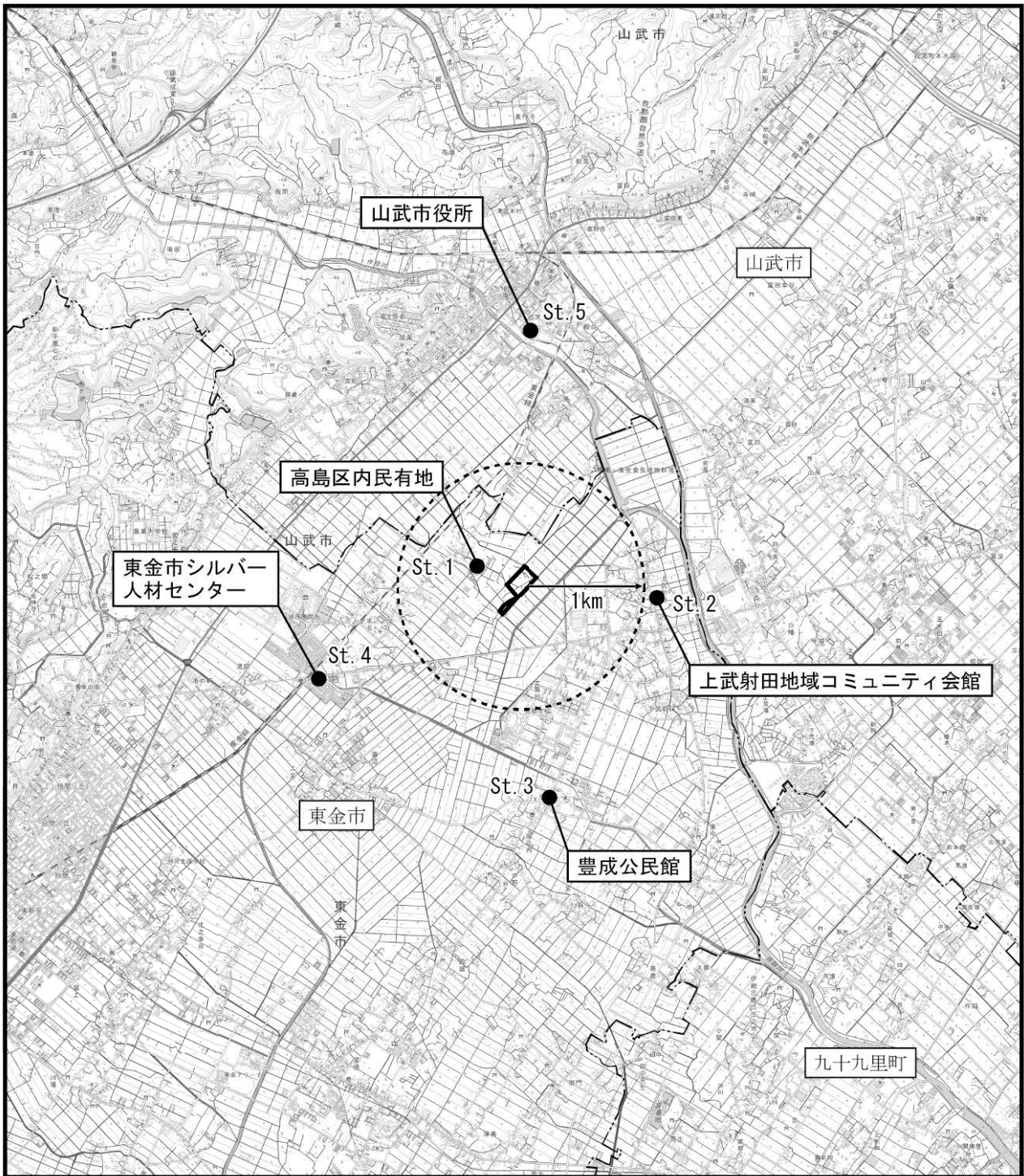
調査項目	調査地点	調査期間
放射性セシウム (大気質)	St.1 高島区内民有地 St.2 上武射田地域コミュニティ会館 St.3 豊成公民館 St.4 東金市シルバー人材センター St.5 山武市役所	1回×4季

2) 調査方法

調査方法は、表 13.1-2 に示すとおりである。

表 13.1-2 調査方法

調査項目	調査方法
放射性セシウム (大気質)	「放射能濃度等測定方法ガイドライン」（平成 25 年 環境省）に定める方法



凡 例

- : 都市計画対象事業実施区域
- : 行政界
- : 調査地域
- : 放射性セシウム調査地点 (大気質)

図 13.1-1 放射性セシウム調査地点 (大気質)



この地図は、国土地理院発行の電子地形図2万5千分の1を使用したものである。

3) 調査結果

調査方法は、表 13.1-3 に示すとおりである。

表 13.1-3 調査結果

調査地点	調査期間		放射性物質	
			セシウム134	セシウム137
			Bq/m ³	Bq/m ³
St.1 高島区内民有地	春季	令和4年3月23日(水)	0.5未満	0.5未満
	夏季	令和3年7月24日(土)	0.5未満	0.5未満
	秋季	令和3年10月21日(木)	0.5未満	0.5未満
	冬季	令和4年1月14日(金)	0.5未満	0.5未満
St.2 上武射田地域コミュニティ会館	春季	令和3年5月23日(日)	0.5未満	0.5未満
	夏季	令和3年7月24日(土)	0.5未満	0.5未満
	秋季	令和3年10月21日(木)	0.5未満	0.5未満
	冬季	令和4年1月14日(金)	0.5未満	0.5未満
St.3 豊成公民館	春季	令和3年5月23日(日)	0.5未満	0.5未満
	夏季	令和3年7月24日(土)	0.5未満	0.5未満
	秋季	令和3年10月21日(木)	0.5未満	0.5未満
	冬季	令和4年1月14日(金)	0.5未満	0.5未満
St.4 東金市シルバー人材センター	春季	令和3年5月23日(日)	0.5未満	0.5未満
	夏季	令和3年7月24日(土)	0.5未満	0.5未満
	秋季	令和3年10月21日(木)	0.5未満	0.5未満
	冬季	令和4年1月14日(金)	0.5未満	0.5未満
St.5 山武市役所	春季	令和3年5月23日(日)	0.5未満	0.5未満
	夏季	令和3年7月24日(土)	0.5未満	0.5未満
	秋季	令和3年10月21日(木)	0.5未満	0.5未満
	冬季	令和4年1月14日(金)	0.5未満	0.5未満
濃度限界			20以下	30以下

13.1.2. 土壌

1) 調査地点及び調査期間

調査地点及び調査期間は、表 13.1-4 に示すとおりである。調査地点は、図 13.1-2 に示す都市計画対象事業実施区域周辺の 5 地点とした。

表 13.1-4 調査地点及び調査期間

調査項目	調査地点	調査期間
放射性セシウム (土壌)	St.1 高島区内民有地 St.2 上武射田地域コミュニティ会館 St.3 豊成公民館 St.4 東金市シルバー人材センター St.5 伊藤左千夫記念公園	1回

2) 調査方法

調査方法は、表 13.1-5 に示すとおりである。

表 13.1-5 調査方法

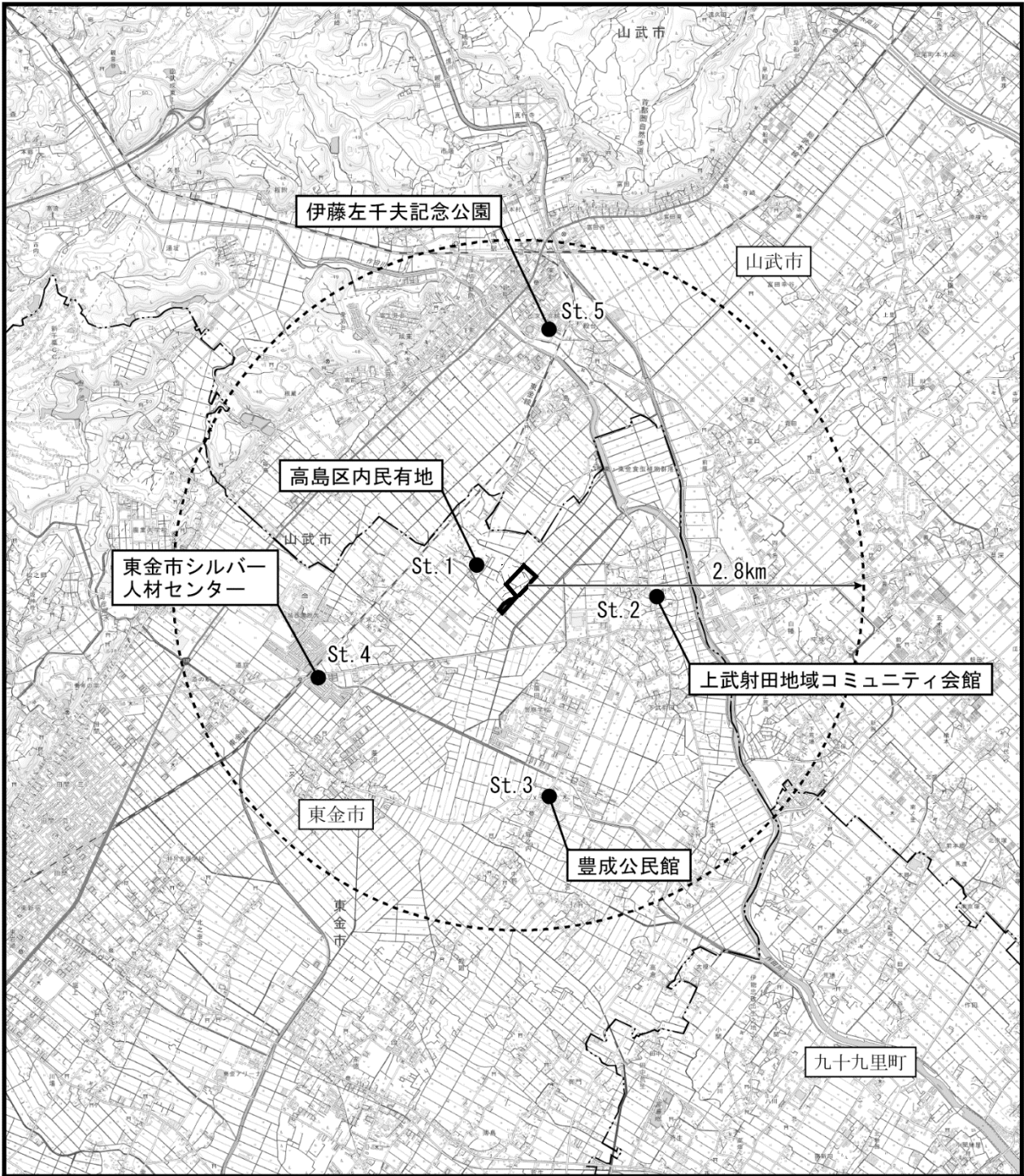
調査項目	調査方法
放射性セシウム (土壌)	「環境影響評価技術ガイド（放射性物質）」（平成 27 年 環境省）等を参考

3) 調査結果

現地調査地点における調査結果は、表 13.1-6 に示すとおりである。

表 13.1-6 調査結果

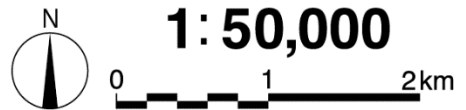
項目	単 位	調査地点					
		St.1 (8月18日)	St.2 (8月18日)	St.3 (8月18日)	St.4 (8月18日)	St.5 (8月18日)	
放射性物質	放射性セシウム Cs-134	Bq/kg	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	放射性セシウム Cs-137	Bq/kg	38	26	67	39	60
	放射性セシウム 合計	Bq/kg	38	26	67	39	60



凡 例

- : 都市計画対象事業実施区域
- : 行政界
- : 調査地域
- : 放射性セシウム調査地点（土壌）

図 13.1-2 放射性セシウム調査地点（土壌）



この地図は、国土地理院発行の電子地形図2万5千分の1を使用したものである。

13.2. 土質の工学的性状について

13.2.1. 土質試験の概要

都市計画対象事業実施区域内において試料を採取し、土質試験を行った。土質試験の概要は、表 13.2-1 に示すとおりである。また、調査地点は図 13.2-1 に示すとおりである。

表 13.2-1 土質試験の概要

試験項目	規格・基準	調査地点
土粒子の密度試験	JIS A 1202	都市計画対象事業 実施区域内 (St.1～St.9)
土の含水比試験	JIS A 1203	
土の粒度試験（ふるい分け・沈降分析）	JIS A 1204	
土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	
締固めた土のコーン指数試験	JIS A 1228	

13.2.2. 試験結果

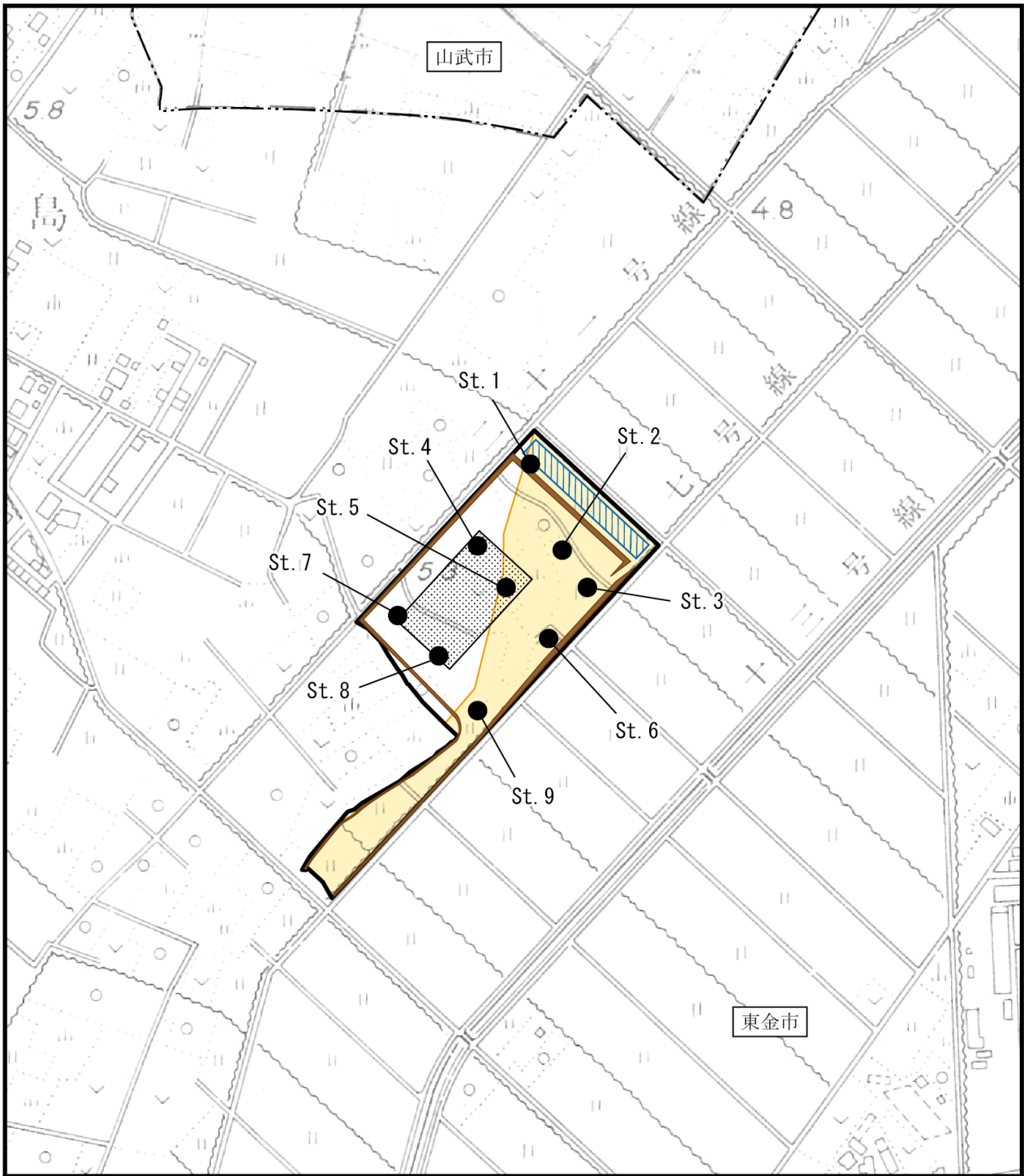
土質試験の結果は、表 13.2-2 に示すとおりである。

粒度特性については最大粒径 2～26.5mm、礫分はほとんど含まれず、砂分主体で構成される。細粒分（シルト・粘土分）についてはばらつきがあり、9～59%程度となった。

コンシステンシーにおいては、粘性が乏しく明確な試験値が求められず NP ($I_p \div 0$) となる試料もある反面、塑性指数 40 以上と高い値を示した試料も見受けられる。

以上の試験結果より土質材料の工学的分類を判別すると、St.6 と St.9 は「有機質粘土（高液性限界）(OH)」、それ以外の試料は砂質土であるため「細粒分まじり砂 (S-F)、細粒分質砂 (SF)、礫まじり細粒分質砂 (SF-G)」に各々分類される。

建設発生土の区分を目的としたコーン指数試験の結果を見ると、適用用途としてそのままではほぼ使用不可と考えられる「第 4 種」、「泥土」の試料も確認された。



凡 例

: 都市計画対象事業実施区域

: 行政界

: 土質試験調査地点 (試料採取地点)

: 表土掘削範囲

: 盛土範囲

: 地盤改良範囲

: 調整池掘削範囲

図 13.2-1 土質試験調査地



1:5,000

0 100 200m

表 13.2-2(1) 試験結果一覧

試料名		土壌					
測点		St.1	St.2	St.3	St.4	St.5	
土粒子の密度試験	(g/cm ³)	2.449	2.615	2.661	2.551	2.649	
自然含水比	(%)	90.1	20.1	33.8	59.5	15.2	
粒 度	礫分	(%)	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
	砂分	(%)	53.8	85.0	90.6	72.2	89.5
	シルト分	(%)	25.7	6.9	4.2	18.0	4.6
	粘土分	(%)	20.5	8.1	5.2	9.7	5.9
	最大粒	(mm)	4.75	4.75	2	9.5	4.75
液性限界	(%)	109.4	-	-	59.3	-	
塑性限界	(%)	66.9	-	-	41.3	-	
塑性指数		42.5	NP	NP	18.0	NP	
分類名(分類記号)		細粒分質砂 (SF)	細粒分質砂 (SF)	細粒分 まじり砂 (S-F)	細粒分質砂 (SF)	細粒分 まじり砂 (S-F)	
コーン指数	(kN/m ²)	173.8	2609.0	319.1	98.5	2279.3	
建設発生土の区分		泥土a	第2b種	第4種	泥土a	第1種	

表 13.2-2(2) 試験結果一覧

試料名		土壌				
測点		St.6	St.7	St.8	St.9	
土粒子の密度試験	(g/cm ³)	2.440	2.566	2.632	2.416	
自然含水比	(%)	105.2	36.5	31.1	126.6	
粒 度	礫分	(%)	0.1	0.0	8.9	0.1
	砂分	(%)	49.6	75.4	70.3	41.0
	シルト分	(%)	30.5	16.0	11.2	31.9
	粘土分	(%)	19.8	8.6	9.6	27.0
	最大粒	(mm)	4.75	4.75	26.5	4.75
液性限界	(%)	115.8	-	-	149.1	
塑性限界	(%)	70.8	-	-	87.1	
塑性指数		45.0	NP	NP	62.0	
分類名(分類記号)		有機質粘土 (高液性限界) (OH)	細粒分質砂 (SF)	礫まじり 細粒分質砂 (SF-G)	有機質粘土 (高液性限界) (OH)	
コーン指数	(kN/m ²)	56.5	755.9	671.3	56.5	
建設発生土の区分		泥土b	第3a種	第3a種	泥土b	